

青少年育成委員会 事業計画

委員長 中堀 淳

つくば市が発行する「つくば市グローバル化基本方針」においては、多様な文化的背景を持つ人々が身近に暮らしている日常が「あたりまえ」になっている状態を最終目標として掲げているものの、未だその途上であると示されており、国際的な相互理解が不十分となっています。未来のグローバル社会を築くにあたっては、子どもの頃から他者の立場を理解し、異なる意見に寛容に向き合いながら相互理解を深めていくことが必要です。

まず、日本で過去に起きた戦争や現在も海外で続く戦争について学び、考えることによって、子どもたちが国際的な相互理解を深めるための事業を行います。戦争は国際的な相互理解が不足していることによる過ちの代表例です。つくば市周辺地域には太平洋戦争の戦跡が存在しており、子どもたちが地域の歴史を学び、平和について考える環境が整っています。また、つくば市は多くの国際的な研究機関が集まる街であり、海外事情に詳しい専門家や留学生が多く在住しています。このような地域の利点をいかした事業を行います。本事業においては太平洋戦争の痕跡に触れることで、戦争の実態とその影響について直接的な体験をもって学ぶとともに、日常で触れる機会が限られた現在の国際情勢や他国の文化・価値観を学びます。歴史と現代の課題を通じて、多様な視点を取り入れ他者の立場を考える共感力と想像力を養います。これにより、子どもたちが自らの行動や選択によってどのように国際社会に貢献できるか理解し、多くの異なる文化的背景を持つ人々が暮らすつくば市において、日常生活の中でそれを実践できるよう成長するきっかけとします。

国際的な相互理解が深まることで、異なる国籍の人々が共に暮らすつくば市において子どもたちは他者の立場を理解し、建設的に向き合うことのできる人間に成長します。ひいては未来のグローバルな社会を築く国際的なリーダーとして成長することに繋がります。

職務分掌

1. 過去の歴史と現状を理解し平和を築く青少年事業